カンボジア短信 ： 2015－№18 （8月上・下旬・9月上旬）

17. SEP. 15

小島正憲

1.「東横イン」近況

9月中旬、私はほぼ1年半ぶりに、カンボジア入りした。今回は、今年7月、プノンペン市内にオープンした「東横イン」に泊まってみることにした。「東横イン」は、空港から40分程度の便利な場所で、市の中心部に近く、イオンへも歩いていける地点にあった。プノンペンの「東横イン」も、コンセプトはビジネスホテルであり、玄関口やフロントは簡素な造りであった。もちろん部屋も日本の「東横イン」とほぼ同じ広さであり、すべてが合理的でコンパクトにまとめてあった。朝食も質・量とも適当であり、ホテル従業員のマナーやサービスも適切であった。宿泊代は、39～59＄（ただし現在はキャンペーン中で19～39＄）であり、他のビジネスホテルより若干安く、観光ホテルの半額程度。部屋数は約300室。フロントの女性の話によると、現在の客室稼働率は30～50％で、日本人だけでなく中国人、韓国人の利用客も多いという。私がこのホテルで感心したのは、朝食の後片付けが日本同様のセルフサービスになっており、食器の返却口では、残り物を専用のゴミ箱に捨て、皿、コップ、スプーンなどを分別して棚に置くようになっており、すべての利用客が整然とそれを実行していたことである。もちろん日ごろマナーの悪さで顰蹙を買っている中国人も、全員がそれに従っていた。これは他のカンボジアのホテルでは、あまり見かけない光景である。

2. イオン近況

カンボジア初の近代的なショッピングモールとして開業し、1年が経過した「イオンモールプノンペン」は順調に推移しているようで、この結果を受け、8／07，イオンは18年夏に2号店を出店することに決定したと発表した。たしかに「イオンモールプノンペン」は、フロアーはゆったりとしたスペースで、約180店舗からなる専門店も先進各国の店舗にも引けを取らないような展示の仕方になっており、店員のマナーもよく既存のプノンペンの百貨店やスーパー、市場、ショップとはかなり様相を異にしている。

中でも私が感心したのは、各所のトイレの周辺に、20人ほどが座れる休憩場所が設置されていたことである。もちろん清潔で、冷房もしっかり効いているので、買い物客だけでなく、近隣の住民の多くが、ここに涼を求めてやってくることだろう。モールにはそのような賑わいが必要なのであり、イオンはそれらを十分計算に入れているのであろう。私が訪れたのは、火曜日の午前中で、もっとも人出が少ない曜日と時間帯であったが、それでも買い物客はそこそこ居た。店員さんの話では、週末はフロアーが買い物客でいっぱいになるという。

このモールの中心に、日本の「ワタミ」経営のレストランがある。昼食を取るために、ワタミに入ったところ、日本人ビジネスマンらしき人たちや、若い女性の二人連れ、中年夫婦などで、混み合っていた。値段帯は、6～10＄で一般のカンボジア人の昼食としては、少々高いという感じであり、まだワタミで食事をするということが、一種のステータスになっているような状況だという。たしかに食事中の若いカンボジア女性のバッグはルイ・ヴィトンだった。

食堂街の中に、「回転しゃぶしゃぶ」というレストランがあり、回転寿司のように、お客さんの目の前を、しゃぶしゃぶの具材が一皿ずつ回っていた。お客さんは好きな具材を取り、一人鍋でしゃぶしゃぶを食べていた。この店には、結構な数のお客さんが入っていた。私はおもしろいアイディアだと思い、しばらくその光景に見とれていた。

3. プノンペン SEZ 近況

プノンペン市内にあるプノンペン経済特区（SEZ）は、その全区画が売却済みで、デベロッパーの成功例として喧伝されている。余勢を駆って、プノンペン SEZ を運営するプノンペン経済特区社は、年内にタイとの国境沿いのポイペトに

SEZ を着工するという。なお同時に、同社は年内にもカンボジア証券取引所(CSX)に上場する予定だと発表している。

たしかにプノンペンSEZは、最近、デンソーが大きな工場を建設し始めているし、すでに稼働しているミネベア(従業員5000人)などの大型工場やロックス(縫製業)などは、業績を順調に伸ばしている。またカネジュー(縫製業)など、現在、建設中の工場も多く、活況を呈している。それでもまだ特区内には空き地が多い。おそらくこれから開発が進むのだろう。しかし私は、「もしこの特区がフル稼働し始めたら、数万人の労働者がここで採用されることになり、賃金高騰や人出不足が生起してくるのではないだろうか」などと、ついつい心配してしまう。

私が今回、1年半ぶりにこの SEZ を見て回って驚いたのは、この SEZ 内に、すでに「FOR SALE」の看板を掲げている工場が3社もあったことである。そのうちの1社は日系のカバン工場で、5か月前に撤退したということであった。

---

1. プノンペン特区社、ポイペトで新特区着工

プノンペン経済特区(SEZ)を運営するプノンペン経済特区社は、タイと国境を接する北西部バンテイメンチェイ州ポイペトで、「ポイペト経済特区」を年内に着工する。ポイペトは、タイから生産拠点を分散させる「タイ・プラスワン」の有力候補先として期待されている。同社は年内にカンボジア証券取引所(CSX)に上場し、調達した資金の多くをポイペト経済特区の開発資金に充てる予定。

2. 南東部バベットの2 経済特区、輸出好調

カンボジア南東部スバイリエン州にあるベトナム国境の町バベットのマンハッタン経済特区(SEZ)と大成バベット経済特区の1～8月の輸出額が、計4億 2,246 万米ドル(約 507 億 2,000 万円)に達したことが分かった。商業省によると、マンハッタンの輸出額が2億 2,354 万米ドル、大成バベットが1億 9,892 万米ドルだった。主要輸出先は米国や欧州連合(EU)諸国、アジア、アフリカ。8月単月の輸出額は2カ所で計 5,353 万米ドルとなり、7月の 4,522 万米ドルから 18.4%伸びた。マンハッタンは 22%増の 3,148 万米ドル。大成バベットは 13%増の 2,205 万米ドルだった。マンハッタンは 2005 年設立で、現在は 24 社が入居し、総雇用数は約2万 3,000 人。敷地面積は 300 ヘクタールで、投資額は4億 600 万米ドル。大成バベットは 06 年設立で、約 20 社が入居、総雇用数は約 8,000 人。敷地面積は 200 ヘクタールで、投資額は1億 2,600 万米ドル。

3. イエン・チリト氏死去、旧ポト派最高幹部

8／22、イエン・チリト氏(カンボジア旧ポル・ポト政権の社会問題相)が、心臓発作のためカンボジア西部パイリンの息子の自宅で死去。83 歳。ポト派最高幹部だったイエン・サリ元副首相兼外相(故人)の妻。10 年にポト派最高幹部の一人として、夫らと共にポト派による大量虐殺や人道に対する罪などで起訴され、11 年に初公判が開かれた。12 年に認知症のため釈放。最近はパイリンで親族の介護を受けながら暮らしていた。

4. 中国が最大債権国、カンボジア対外債務の4 割

カンボジアの首相府は28 日の閣議で、対外債務51 億9,400 万米ドル(約6,320 億円)のうち、約4割の21 億8,600 万米ドルが中国からの借り入れであることを明らかにした。カンボジアの対外債務残高は 2014 年9月時点で 51 億 9,400 万米ドルに達した。債権国別をみると、最大の中国は約42.1%の 21 億8,600 万米ドルを占め、韓国の2億7,700 万米ドル(5.3%)、日本の1億 8,200 万米ドル(3.5%)が続く。外国からの借入金は、道路や電力などのインフラ建設や経済発展、人材育成に充てられている。報告によると、国民1人当たりの対外債務額は338 米ドルで、対国内総生産(GDP)の 33.1%。米国やフランスなどと比べても低水準で、管理可能な範囲だとしている。

5. シアヌークビルに屠殺場、豪州牛肉を加工

カンボジア南西部シアヌークビルで建設中の豪州食用牛の大型屠殺場S.L.Nが、年内に稼働する見通しだ。 港湾都市シアヌークビルのプレーノ(Prey Nob)郡に立地する屠殺場は、敷地面積 76 ヘクタール。カンボジア人投資家が2,500 万米ドル(約 30 億円)を投資して建設した。S.L.Nの担当者は、「牛は生きた状態で豪州から輸入。工場には世界水準の設備を導入し、アジアでも最大級の輸入豪州食用牛の屠殺場になる」と話した。

6. 縫製協会の訓練施設着工、プノンペン特区で

カンボジア縫製協会(GMAC)が設ける「カンボジア縫製訓練施設(CGTI)」が3日、首都プノンペン郊外にあるプノンペン経済特区(PPSEZ)で着工した。CGTIは縫製業界のすべての労働者を対象に、訓練を提供する。フランス開発庁(AFD)の援助を受けて建設を開始し、2016 年下半期に竣工、開業する予定。投資額は 300 万米ドル(約3億 6,000 万円)。開業から3年以内に、1,600 人の養成を目指す。縫製業への就職を希望する大学卒業生 240 人を対象に、1年間の訓練コースも提供する予定。希望者は好みに応じ、生産過程や品質管理、服装設計などから訓練科目を選べるという。GMACの事務局長は、「CGTIは、縫製労働力の不足を解消し、より多くの労働者が縫製業に従事できるよう支援していく」と話した。

7. 最近の外資の進出状況

・元気寿司、カンボジアでフランチャイズ店運営契約

8／21、元気寿司は、カンボジアで現地企業とフランチャイズ方式で回転寿司レストランチェーンを運営する契約を結んだと発表した。元気寿司は東南アジア地域では既にシンガポールやタイ、インドネシアに同じ方式で展開しているものの、カンボジアは初進出となる。

・タイ素材大手SCG、カンボジアに2億～3億ドル投資＝3番目のセメント工場

タイ素材大手サイアム・セメント・グループ(SCG)は、今後5年間にカンボジアで2億～3億ドル(約70億～107億バーツ)を投資する。同国3番目のセメント工場を建設するほか、生コン拠点を現在の14カ所から2倍に増やす。SCGは首都プノンペンから南西130キロのカンポットにセメント工場を設置し、2007年に生産開始した。最初の工場は年産110万トンで、今年5月に同90万トンの第2工場が稼働した。カンボジアのセメント需要は年間400万トンで、今後も拡大すると予想し、第3工場を追加する。

・ベトナムのゴム樹脂加工工場完成

8／26、カンボジアのコンポントム州で、ベトナム・ゴム工業グループ(VRG)のカンボジア子会社タンビエン・コンポントムによるゴム樹脂加工工場の完成式が行われ、ベトナムのカオ・ドク・ファット農業・地方開発相とカンボジアのイム・チャイリー副首相が出席してテープカットが行われた。

・プノンペンの大型スーパー、数年内に１１ 軒完成

プノンペン市内の大型スーパーマーケットは、向こう数年以内に現在の 14 軒から 25 軒に増加する見通しだ。プノンペン市の大型スーパーに関する調査結果によると、現在営業中の大型スーパー14 軒に加え、11 軒が建設中もしくは開発段階にあるという。

・タイのサイアム・セメント、カンボジア2工場、3～4年以内にフル操業へ

タイ素材大手サイアム・セメント・グループ(SCG)のカンボジア関連会社カンポット・セメントは、カンボジアの2カ所の工場が3～4年以内にフル操業する。年産能力は計200万トンになる見込み。

・東南ア初の東横INNプノンペン　数年で稼働率 80％目指す

8／30、ホテルチェーンの東横インは、カンボジアの首都プノンペンに「東横INNプノンペン」をグランドオープンしの方針の下、不動産オーナーになるカンボジア人実業家を見つけたことが、進出の決め手になった。数年内に客室稼働率 80％の達成を目指す。

・コロワイド、プノンペンに「牛角」１２ 月出店

9／01、外食大手のコロワイド(横浜市)は、グループ会社のレインズインターナショナル(横浜市)が7月 21 日にカンボジアの大手企業グループTH・F＆Bと焼き肉チェーン「牛角」のフランチャイズ(FC)契約を締結したと発表した。12 月初旬に「牛角」のカンボジア1号店を首都プノンペンに出店する計画。1号店について、コロワイド広報部はNNAに、「プノンペン中心部の候補地の中から、出店場所を検討している段階」と説明した。向こう 10 年内に同国で 15 店舗の出店を目指すとしている。

・KDDI、プノンペンに支店開設＝東南アジアの法人ビジネス拡大で

9／03、KDDIは、経済成長が続く東南アジアでの法人ビジネス拡大策の一環として、10月1日付でカンボジアにプノンペン支店を開設すると発表した。海外子会社の「KDDIシンガポール」の支店という扱いとし、工場やオフィスのI

Tインフラ構築から保守・運用サービスまでを、日本と同様の品質で提供するという。

・タイの鋼管サムチャイ、カンボジアに子会社

9／09、タイの鋼管製造大手サムチャイ・スチール・インダストリーズ（SAM）は、カンボジアに生産・販売子会社スチール・ハブを設立すると発表した。タイ証券取引所（SET）への報告によると、資本金は 100 万米ドル（約1億 2,000 万円）で、SAMが 100％出資する。スチール・ハブでは、ブラックスチールやリップ溝形鋼の生産・販売を手掛ける。子会社設立に向け、工場の建設業者を選定し、建設作業を来年半ばに完了させる見通し。

・マレーシアのハレックス、カンボジア宝くじ会社の株式取得へ

9／14、農薬・化学肥料製造などを手掛けるマレーシア企業ハレックス・ホールディングスは、子会社ハレックス・インターナショナルを通じ、カンボジアの宝くじ会社VWウィン・ホールディングスの株式51％を取得すると発表した。

以上